

**名勝哲学堂公園整備検討委員会
令和7年度第1回 議事概要**

<p>学識者委員の 出席状況</p>	<p>亀山委員、内田委員、北田委員</p>
<p>議事の概要</p>	<p>【実施設計（第一期）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な石造物に対し、コーティング剤などその時代でないものを添加するのは、最小限にとどめるのが基本的な考えである。 ・三字壇のたたきの成立年代が明らかにならないのであれば、可逆性をもった応急処置にとどめることが大事である。 ・七十七場の解説について、紙媒体や電子媒体と併用することを前提に、個々の七十七場へはQRコードを設置しないことで良い。 ・七十七場の石標は、個々の設置時期を踏まえて、文化財として取り扱うのか、解説板として取り扱うのかを検討する必要がある。また、今回整備する石標は、設置年を本体に記載すると良い。 ・円了氏や玄一氏が建てた石標そのものがガイダンスなので、そこに更にガイダンスのシステムを被せることにならないよう留意すること。 ・転落防止柵の支柱は、手すりと合わせて天然木で統一する。基礎はなるべく地面の掘削を減らすため、杭基礎を併用する。 ・クスノキの根上がり等が見られる箇所や石段の修理は、将来的にクスノキをシラカン等の自然植生に置き換えるまでの間の暫定措置として理解した。 ・髑髏庵裏の園路の縁石は、比較的新しい石と推測されるので、記録等が残っていないのであれば、玉石縁石に変更して問題ない。 ・斜面地の雨水排水について、一律に浸透柵へと集めるのではなく、表面排水させることも検討すべきである。 ・板柵土留めが露出するのは見苦しいので、草本で覆うなどし、景観に配慮すべき。 <p>【常識門の修復工事について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計時点からの仕様変更等については、都度委員に指導を受けながら進めること。 <p>【石積（独断峡・心理崖・造化爛）の診断調査について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の調査により、基礎や裏込めの有無について整理するように。 ・文化庁の石垣耐震診断指針（案）に準拠することに固執せず、安全性等の実態を踏まえて評価する方針が良いのではないかと。